

はこぎま

箱崎環境対策協議会

第7号

中央区日本橋
箱崎町34の8
電話 667-5667

賀正

☆御挨拶

謹んで箱崎町の皆様へ新年の御挨拶を申し上げます。

明けましてお目出とう御座居ます。昨年は国外にては湾岸戦争に連合国側の武力行使による短期決戦に入り勝利に終わり、我が国の心配されました石油輸入問題等も短期間杞憂にて終了致しました事は誠に喜ばしい限りと存じます。

国内にては長崎県雲仙普賢岳の爆発による住民の方々の苦勞、被害の発生又、九月十月長雨と度かさなる台風の本土襲来に依る各地の大被害の発生等、昨年は天災に見入られた一年ではなかつたかと思ひます。

一昨年IBM社の寄贈による地域開発貢献資金の使用により渡橋通りの街路修景工事も中央区役所の絶大なる御協力により四月初旬工事完成致し見違える街路と成りました事は御同慶の至りと存じます。

ここ三、四年箱崎町地域はビル、マンション等の建設が大変多くなり古くからお住まいの方々が転出され各町会とも町会運営にご苦勞されて居られる事と推察致して居ります。

当会は住よい箱崎の街づくりに一層邁進する所存で御座居ますので会員皆様の御意見御希望等御座居ましたら役員、正副会長等に申し付け載ければ幸と存じます。

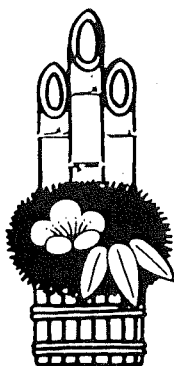
又、編集委員の方々には御多忙中にもかかわらず夜間の編集会議を度々開かれニュースを取りまとめられ「はこぎま」を発行されその御苦勞に厚く、厚く御礼申し上げます。

本年も会員役員皆様の御協力、御支援を御願い申し上げ皆様の御多幸を御祈り致し年頭の御挨拶と致します。

平成四年

元旦
箱崎環境対策協議会

会長 宝田陽一
副会長 川田利雄
清水総一郎

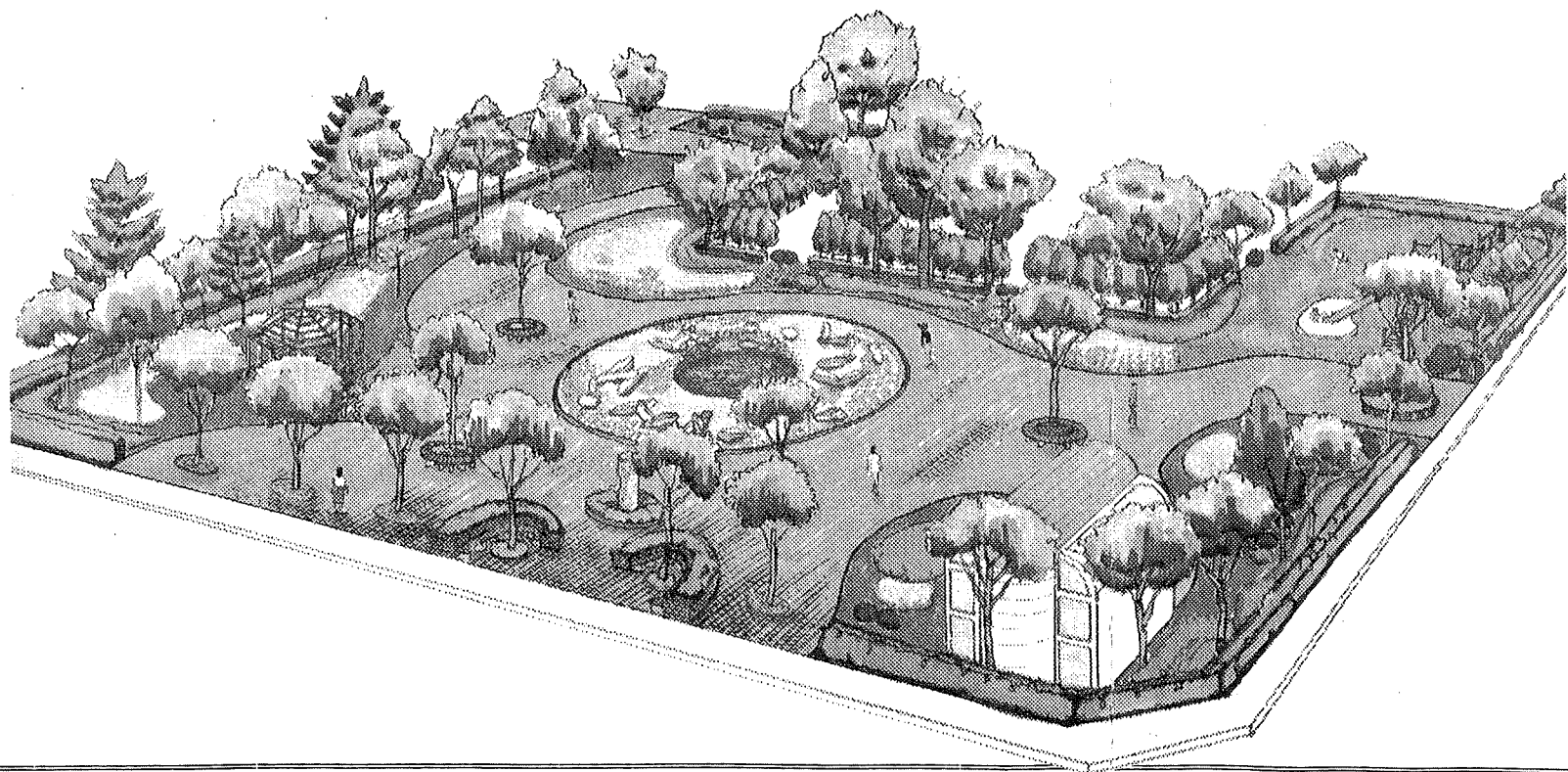


☆箱崎公園改修工事始まる

箱崎公園が平成4年3月27日に、完成する予定です。公園はいままでのイメージと違がつて、すばらしく明るい感じになる予定です。公園の真中には噴水が出来、木製遊具が出来、植木はサクラ、ハナミズキ他にもいっぱい咲きほこる予定です。

子供達の喜ぶ顔が今から見える様です。トイレも立派な建物に生まれ変わります。

私達「環境対策協議会」といたしましても新しい公園を夏祭りや各種イベントに住民の良きコミュニケーションの場として、また町の中心的防災の場として有効に利用出来るよう幾つかの希望を区に申し入れました。



『箱崎地区第一種市街地再開発事業』

いよいよ着工

今日、東京湾岸一帯はいま大きく変貌をとげようとしています。東京証券取引所を中心とした兜町、茅場町の金融街の膨張の波は隣接する新川や箱崎にも押し寄せ業務用ビルが盛んに建設されておられます。そんな中で箱崎地区は良好な立地条件に恵まれながら、関東大震災や戦災にも奇跡的に取り残された結果、地区内の建物は部分的には小規模耐火建築物があるものの大部分は老朽化した低層木造家屋が密集しているのが現状です。将来はそれぞれの権利者は細分化された土地に効率の低い小規模なビルを敷地ぎりぎり建て、防炎、都市の美観の低下など多くの問題を抱えております。

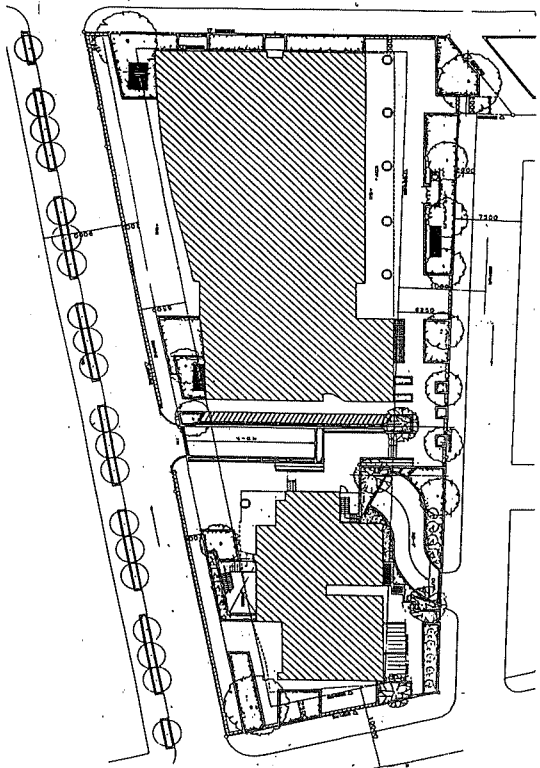
このような環境をふまえて、当開発事業は昭和61年より関係者と協議をかさねてまいりました。63年には準備組合結成届けが東京都に受理され、平成2年には東京都の都市計画事業として都市計画が決定されました。また同2年には箱崎地区市街地再開発組合の設立認可を受け、公法人として東京都の法定再開発事業を実施する事になりました。

このような公式の手続きを経て、さらに中央区の街づくり基本方針を参考にして左記のような整備を進めていく計画でございます。

- ① 人形町、水天宮のモール街や隅田川リバーパークとの整合性をもち、近代的なイメージの中にも潤いと安らぎのある都市景観を創造する。
- ② 道路の付替拡幅、歩行者と車両の分離による交通安全の確保
- ③ 電波、日照、風害対策を配慮した施設計画とする。



- ④ 大気汚染公害の防止のために隅田川の河水を利用した地域冷暖房の一部導入。
 - ⑤ 近隣地区住民も利用できる集会場と公共駐輪場(有料)の整備。
- 以上のことから周辺地区との整合性を図りつつ、箱崎界隈の未来のために悔いのない街の形成に寄与できるように開発整備をすすめてまいりたいと考えておりますので、御協力のほど宜しくお願い申し上げます。
- 再開発組合より箱崎の皆様へ —



『箱崎環境対策協議会』の今年の仕事

- 一、箱崎のメインストリート(湊橋からターミナル迄)を日の丸の小旗で飾り新年を祝います。
- 二、また、この通りに名前を付けたいと思えます。この案を新川の町会の方々にもお願いし亀島橋からターミナル迄の通りを素敵な名前にしたいと思えます。楽しい方法で皆で名前を付けましょう。
- 三、さらにこの通りを美しい通りにする為、電柱の地中化を行政へ働きかけて行きます。
- 四、人形町からターミナル迄歩道が奇麗になりました。郵船跡の読売ビルも工事が進んでいます。ターミナルから隅田川迄の歩道を奇麗にしたいですね。(昨年末都へ要望書を提出しました)
- 五、箱崎町内の各町会が協力してこの協議会を進めています。箱崎公園も美しく生まれ変わります。再開発で町の中心的地域が大きく変わります。町の変化が私達住民にとつて住み良い変り方と成る事を第一に働いて行きます。

編集だより

あけましておめでとございます。今年も皆様に楽しく読んでもらえる様、編集部一同ガンバリます。御意見、御希望等ありましたらどしどしお聞かせ下さい。

編集部

- | | |
|-------|-------|
| 山中 国広 | (編集長) |
| 青木 昭吾 | 大塚 英一 |
| 清野 健一 | 竹門 栄一 |
| 加藤 恵一 | 嘉藤 清市 |

箱崎町の歴史

蛸殻町の東南海手に、幅30間の入堀を隔てて築かれた島地で、旧区史に、天正の埋立で南部が埋立られたとしている。寛永図には巾着型に画かれ、日本橋川添いに後の北新堀町が一筋あるほかはすべてが武家地で「するが大納言様御くらやしき」「むか井将げん下やしき、くら有」と註してある。

箱崎の町名の由来は明らかでなく、筑紫箱崎の名を取ったものとも、昔箱池(或は箱崎池)があった所などともいい、定かでない。一名を朽木島と称したともいうが、これは延宝から享保にかけて、後の3丁目の地に朽木伊豫守の邸地があった頃に生じた名称であることは論をまつまい。江戸時代の此の地は大部分が武家屋敷で占められ、日本橋川下の新堀に添った北新堀町と崩橋(後の箱崎橋)に橋際を立地とする箱崎町1丁目と2丁目が存するにすぎず従って道路も箱崎川沿いに一条、新堀川沿いに一条と、二条の道路があるにすぎなかった。

維新後武家地が公収され箱崎町3丁目、4丁目が誕生するのである。箱崎町4丁目は島の北半を占める景勝の地、延宝の頃には堀田対馬守、阿部美作守の邸地であり、元禄以後は阿部豊後守が一手に領していた。

その後延享3年(1746)にいたり田安家がこの地を拝領、天保14年には隣地戸田采女正の上げ屋敷を併せて1万7千坪の大邸地となった。園池整い層楼聳え、眺望に秀れているので、田安家ではこの風光を賞して函崎八景を撰した。佃島夕照、深川夜雨、永代橋帰帆、靈岸寺晩鐘、石場晴嵐、中洲落雁、三又秋月、筑波暮雪がこれである。田安家邸地は維新後旧土佐藩主山内容堂侯が入主し、明治38年に自費を投じて木橋、土州橋を架し、同42年に東京府に寄贈した。この橋梁によって陸送の便の著るしく促進されたことを多としなければならない。山内家がこの地を去って後、土地の分譲が終るまでのつかの間、旧庭園の築山は近所の少年達の格好の遊び場であったが、やがて住宅や工場が建ち、河岸沿地に日本郵船会社の倉庫の建設工事が始まり、急速に市街地と倉庫地帯となっていった。

震災前は、北新堀町と箱崎町4丁目の中間地帯の3丁目、約8,000坪の土地は東神倉庫の所有地で、延々と塀が廻らされ、道路は全くなく、ただわずかに東神倉庫の表を通る八間道路が1本存するのみであった。しかもこの唯一の道路は交通量が多く障害を及ぼした。この交通上の障害を取除くため、地元の人達は東神倉庫の敷地を宅地に開放することを強く要望し陳情するところがあったのである。その結果、北新堀町から北方に延び、3丁目を分断し

て中洲橋を渡り中洲の中央にまで達する道路が新設されることになった。この区画整理により新設幹線道路以西に位置する東神倉庫会社の敷地は開放されて、東京市立日本橋中学校の敷地となり、このため減少する同社の約3,000坪の敷地の換地として、隅田川河岸の日本銀行旧地との交換が認められ、ここに三井倉庫会社の大倉庫が出現することとなった。

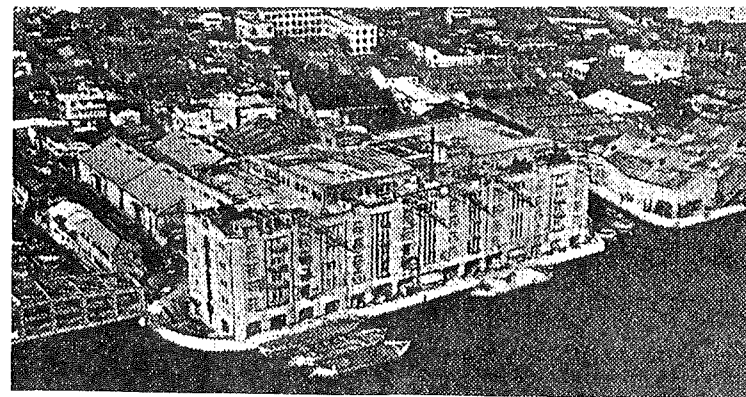
遊覧船にのって隅田川を遡ったことのある人なら、永代橋をくぐるとすぐ上流左側の河岸地に建つ三井倉庫会社の大倉庫、それに引続いて日本郵船会社の倉庫が幾陳となく立ち並ぶ素晴らしい景観を思いだすであろう。

箱崎町地区には倉庫が多い。地方から商品を運漕して来る伝馬船は、箱崎川を主として利用したから、川はいつも、中央にわずかな水路を残して、伝馬船で埋まっていた。昭和6年頃の風景である。

こうした景況は終戦後も見られた。昭和51年1月住居表示実施により、箱崎町1、2、3、4丁目と北新堀町を合せて「箱崎町」の称に改まった。ここの西側は箱崎川に、東側は隅田川に接し、現在の日本橋川にさえぎられて、文字通り島の姿を呈していたのであるが、昭和45年、高速道路の下の箱崎川が埋め立てられ、現在の蛸殻町1、2丁目と陸続きになってしまった。

その箱崎川のところに昭和47年7月1日に設けられたのが東京シティ・エアターミナルである。成田空港の開港遅延とともに、その機能も高速道路を通じて羽田空港に結ぶだけであったが、昭和53年5月成田空港開港とともに、ここが成田空港へ通ずる本拠地になった。昭和54年10月13日には隅田川大橋と命名された近代的な雄橋の開橋式が行われた。

橋は上下二層になっていて、上が高速道路で下は普通の橋という珍しい形式を備えている。



隅田川上空より三井倉庫郡を望む 現在の三井オフィスビルディング(IBM)

以上
(中央区30年史より抜萃)